



原 隆夫 議員（公明党）

中学校の部活動の取組みについて問う

教育長 生徒にとって有意義で充実したものになるよう努めていく

質問 中学校の部活動は、スポーツや芸術などの研さんを通し、責任感や連帯感を高めるなど教育的側面での意義は高い。一方、過度な部活動は、生徒の学業や健康への悪影響も考えられ、また、顧問の教員の負担も重い。文部科学省も、教員の長時間勤務の改善策として部活動の休養日設置を提言している。町では部活動基本方針を既に示しているが、部活動の状況と外部指導員の活用についての方針を伺う。

教育長 町では27年度に生徒の学力向上と健全育成のバランスのとれた指導を推進するため、部活動基本方針を作成した。主な内容は、1週間に1日以上以上の休



瑞穂中学校での部活の様子

質問 瑞穂町の新規就農者がさまざまなメディアで取り上げられるなど、多方面から注目を集めている。意欲ある若者や女性などが安心して農業に参入し、

齋藤 成宏 議員（民進党）

就農者へのさらなる支援と6次産業化に向けて多角的な取組みを

町長 自立に必要な支援を着実に実施していく



継続して携われる環境を町として整えることも大切と考える。また、地域の特性を活かした農業と工業、商業、観光業を組み合わせた6次産業化、すなわち6次産業化・地産地消法の積極的な活用を図っていくことも併せて提案する。

町長 21年4月に都内で初の新規就農者が町に誕生して以来、現在まで12名の方が就農している。町および農業委員会は、新規就農者に農業技術や販路確保支援などを行って



6月に箱根ヶ崎駅自由通路で開催された「みずほマルシェ」

こんな質問もありました
歩きながらスマホの危険防止対策を

町長 今後マナーを守るよう呼びかけていく。

町長 町単独では考えていない。



下野 義子 議員（公明党）

地域認知症ケアコミュニティの推進を

町長 認知症地域支援推進員を配置した

質問 認知症の人への理解を深め、地域全体で支える仕組みづくりが求められている。誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるまちづくりを進めるべきと考える。認知症を理解するための啓発、支援をけん引できる人づくり、早期発見や早期治療を進めるための物忘れ予防・相談事業、高齢者等SOSネットワークの構築および模擬訓練の実施など地域認知症ケアコミュニティの推進を積極的に図るべきと考える。町長の所見を伺う。

その家族支援などを担うため、認知症地域支援推進員として保健師を配置した。また、町内の医療機関が地域連携型の認知症疾患医療センターの指定を受けたので、初期支援集中チームを早い時期に発足させたい。

今後、認知症の状況把握、予防、進行抑制に注意しながら、ネットワークの構築も含め、さまざまな対策を進めていく。

町長 認知症サポート養成講座を民生委員や保護司など、対象を拡大する。高齢課には医療・介護施設などとの連携や認知症の方と



高齢課に認知症地域支援推進員として配置された町職員



小川 龍美 議員（公明党）

図書館運営を指定管理者制度に

教育長 研究を再開したい

質問 図書館は膨大な本を保管し、町民に対し閲覧・貸出しのサービスを行うとともに、広範な情報を収集し提供する情報センターの機能も担っている。現在、町が管理運営を行っているが、全国的には指定管理者制度に移行する図書館が増えている。より充実した管理運営や利用者サービス、効率化を目指すには、専門的知識や経験、様々なノウハウを有する民間企業に委ねることが望ましい。指定管理者制度へ移行すべきと考えるが。

教育長 22年度に業務委託と指定管理者制度の二方式について検討されたが導入には至らなかった。28年4月には青梅市が指定管理者制度を導入。都内でも導入が増えている。



瑞穂町図書館の受付窓口の様子

こんな質問もありました
飼い主のいない猫活動に更なる支援を

町長 ボランティアの皆様と共に、課題解決に向けた取り組みを考えていく。